

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000655		
法人名	総合ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム ひまわりの丘		
所在地	小樽市緑1丁目28番8号 (電話) 0134 - 24 - 7000		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かである2・7 4階		
訪問調査日	平成19年8月17日	評価確定日	平成19年10月25日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 16年 8月 6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物構造	在来工法木造	造り
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円		
その他の経費(月額)	・光熱水費12,000円 ・生活共有費12,000円 ・暖房費8,000円(10月~4月)		
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	4名	要介護 2	8名
要介護 3	3名	要介護 4	1名
要介護 5	2名	要支援 2	0名
年齢	平均 81.8 歳	最低 68 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会小樽病院 小樽セントラルクリニック ミツ山病院 小野内科病院 市村歯科クリニック他
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

バス停から徒歩1分、一丁奥まった静かな住宅街の一角に設立されている。玄関前のフラワーガーデンとテーブルと椅子は、入居者の手づくりで地域住民との憩いの場である。施設長・事務長・管理者は開設当初からの3本柱で、職員と連携をとり理念「ひまわり(職員)が太陽(入居者)を向くように、いつも一人ひとりと向き合います」を共有している。質の確保・向上を目指し、日々研修や勉強会を実施している。ホーム独自の介護計画書と連動したケアプランマップを用い、きめ細やかな介護を実践し「介護新聞」にも報じられ評価を受けている。もう一つの理念「個の意志と尊厳を重んじ」のとおり、畑作りや花壇作り、大作業、釣りボランティアの協力のもと安全を確保しながら多種多様な要望に応じている。また、過去にターミナルケアも実践しており、看護師が2名配置され緊急時対応の支援も柔軟に行っている。近隣住民対象の「認知症特別講演会」も好評で、地域に密着したホームとして期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前は改善課題が有りません。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日頃から介護サービスの質の確保、更なる向上を目指して全職員で話し合っている。自己評価の意義も理解しており、日々の介護を振り返り、改善に向けた具体案の検討や、実践に繋げるために取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	18年4月に設置され、5回の会議が開催されている。自己評価や外部評価の説明に始まり、身体拘束、権利擁護、防災などその時々に関心事をテーマに会議を行っている。さらに、ホームと地域住民が安心して暮らせる地域を目指し、質問・意見・要望が活かせる双方向的な会議になるよう取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	2ヶ月に1度、ホーム通信が発行し利用者一人ひとりの便りを作成し、暮らしぶりや健康状態、金銭収支などが報告している。遠方の家族にも状況に合わせて、電話などできめ細やかな情報提供を行っている。また、苦情窓口等については、入居契約時に口頭で詳細を説明するほか、重要事項説明書に公的機関も含めた相談・苦情窓口を提示している。玄関横には、苦情・要望アンケート箱を備えている。来訪時に、意見・要望などを話しやすい雰囲気と関係作りに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公園の草刈やしめ縄づくり等に積極的に参加しており、町内の人々と馴染みが深くなり多くの協力を受けている。また、玄関前のフラワーガーデンでの地域の人々と交流、大学生のボランティアや近所の方と囲碁対局など交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念は、開設時に職員全員で理想のグループホームを目指しつくりあげた。利用者が、地域の中で暮らせる環境、地域との関係づくりを継続するには、事業所と地域との交流が必要不可欠であることを十分理解している。地域密着型サービスとしての役割を目指している。		開設当初より「地域と共に支えあい助け合う」ことが、重要と考え地域との交流を深めてきた。利用者が地域で暮らしやすい環境、関係づくりを継続している現在、一度作ったままではなく現状に添った理念に作り変えていく取り組みを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいた方針を、会議やカンファレンスやミーティングにおいて職員に示している。全員で共有し、常に意志統一を図り介護サービスの提供を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事である、公園の草刈やしめ縄づくり等に積極的に参加している。町内の人々と馴染みが深くなり、多くの協力を受けている。また、玄関前に広がる利用者手作りのフラワーガーデンは、テーブルと椅子を設置して地域の人々との憩いの場になっている。他には、大学生のボランティアや近所の方と囲碁対局と、地域の一員として交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃から全職員とは、介護サービスの質の確保や更なる向上を目指し話し合っている。自己評価の意義も理解し、日々の介護を振り返り見直しながら、改善に向けて具体案の検討や実践に繋げる為努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>18年4月に設置され5回の会議が開催されている。自己評価や外部評価についての説明、身体拘束、権利擁護、防災などに関することとその時々に関心事をテーマに会議を行っている。さらに、ホームと地域住民が安心して暮らせる地域を目指し、質問・意見・要望が活かせる双方向的な会議になるよう取り組んでいる。</p>		<p>現在の会議記録様式では、具体的な質問・意見・要望の内容が記載されないので、会議の内容を残し活かせる様式の検討を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>支庁の推薦を受け、道の管理者研修の実習事業所に指定されている。又、北海道認知症高齢者グループホーム協議会後志ブロック幹事としても、質の向上について働きかけを行っている。更に、関連する市町村窓口とも良好な協力関係が築けている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1度、ホーム通信が発行されている。利用者一人ひとりの便りを作成し、暮らしぶりや健康状態、金銭収支などが報告されている。家族が来訪した際には勿論、遠方の家族にも状況に合わせて、電話などでできめ細やかな情報提供を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居契約時に、口頭で詳細を説明するほか、重要事項説明書に公的機関も含めた相談・苦情窓口を提示している。玄関横には、苦情・要望アンケート箱を備えている。来訪時にも、意見・要望などの聞き取りを行い話しやすい雰囲気と関係作りに努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>施設長・事務長・管理者の3名は開設時より変わりなく、各ユニットの職員も定着し落ち着いている。職員交代時には、平均1ヶ月以上の引継ぎ期間を持ち、利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮を行っている。職員は、利用者との相性やユニットのバランスも考慮し固定化に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設長、管理者はスーパーバイザー的存在であり、職員は的確な指示・意見を受けている。職員の立場、経験、実践の習熟度に応じた外部研修を受ける機会も確保されている。また、職場内でも「働きながらの学び」を重視して、定期的に研修・勉強会を開催し、研修内容を報告する機会も作っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北海道認知症高齢者グループホーム協議会后志ブロック幹事として事務長、管理者が他のグループホームとのネットワークを持ち、サービスの質の向上の為に交流や情報交換、相互学習を行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望の申し出と共に、職員が会いに行ったりしている。入居希望者が、職員やサービスの場に徐々に馴染めるよう、何度もホームに来ていただいて他の利用者とレクレーションを楽しんだりしている。ここで暮らしたいと思える安心感を与え、信頼関係をつくり、本格的な利用に移るサービスを提供している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>お互いが協働し和やかな生活ができるように、畑仕事や花壇の手入れなど、知識や経験豊かな利用者の意見や希望を伺う場面を作っている。一人ひとりに合った対応を心がけ、介護する人、される人の枠を越え、喜怒哀楽を共にし生活を楽しむ人間同士の絆を大切にしている関係が出来ている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>釣りや墓参りなどの外出は、ホーム計画ではなく安全を確保した上で、一人ひとりの希望に合わせて支援している。煙草やお酒などの嗜好品も、医師の承諾があれば臨機応変に対応し、普段の関わりの中で利用者の思いや希望を感じ取り意向に添えるよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、多角的な視点で作成できるようにケアプランマップと要約票、センター方式を織り交ぜ独自に考案した。利用者、家族、介護員、管理者、事務長、医師、友人などの関係者を含めたチームで意見を聞き作成している。利用者主体でその人らしさが出るような、介護計画になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ホーム独自の様式を用い、利用者の変化が素早く把握できる工夫がされている。月に1度のモニタリングで、変化が見られたりずれが認められた場合には早急に見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師が2名居ることで、利用者の健康面での変動も初期の段階で対応でき、重度化を防いでいる。過去にターミナルケアを実践し柔軟な支援も行っている。利用者や家族の状況、要望に応じて通院介助、墓参り、買い物、外食などの外出支援なども臨機応変に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の意向を一番に考慮し、入居前からの主治医の医療が受けられるよう、通院介助を行っている。そのため、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族の意志を尊重した上で、終末に対する対応方針を家族、医師、看護師等を交えて話し合いを行っている。状態変化時は、その都度話し合いを持ち柔軟に対応している。以前ターミナルケアを実践したことで、看護職員の配置やチームとしての連携体制の重要性を踏まえ対応している。		既に、ターミナルケアを実践した経験がある上で、これからの方針として終末期のあり方をできるだけ早い段階で話し合いをしてはいかがでしょうか。また、「終末期・重度化の生活支援・指針」などについて書面にて確認する事も検討されてはいかがでしょうか。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個の意志と尊厳を重んじ」の理念に基づき、常に利用者の立場に立ち話し方や声かけ等、個々に合わせた人格と尊厳を重視した対応を心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先することなく、利用者が一番に考え個々のペースを乱すことなく見守りながら支援している。利用者のその日の変化や、状況に応じ職員は柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材となる野菜から、一緒に畑で収穫して調理したりしている。献立もワンパターンにならないように、旬の物やリクエストメニュー、びっくりメニューなど食事が楽しみになる工夫をしている。また、調理、配膳、食器洗い等、一連の作業も利用者の残存能力に合わせ、できる部分で一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能で、夜でも利用できる体制を確保している。ほぼ毎日入浴を楽しむ利用者など、一人ひとりのペースや希望に添った入浴支援が行われている。入浴を楽しめるよう、銭湯風の造りの浴室には富士山の絵が掛けられていたり、入浴剤を使用して毎日気分を変えるなど工夫している。特に玄米を精米してできた米ぬか風呂が美人の湯として人気がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランを作成する中で生活歴や家族の情報から、利用者の得意な事や役割を見つけ出し、毎日楽しく暮らせるよう支援している。畑仕事や花壇作りにベンチ作成などの大工仕事、毎日の掃除や日めくりなど等、できるだけ多くの利用者が楽しめる支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の畑仕事や花壇の手入れ、水やりから始まり、散歩、買い物、町内会の草刈りにしめ縄作りなどの行事参加や温泉、外食などと、できるだけ戸外に出るよう支援しております。また、職員と釣りを楽しむなど、利用者一人ひとりの希望に応じた個別外出も実施されております。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行っておりません。自由な暮らしを支援しており、外出を察知した時は、職員が付き添って安全確保に努めている。また、玄関には二重の人感センサーを設置し、万が一の対応もできる工夫がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年に2回利用者と共に消防署の協力を経て避難訓練、消火器の使い方などの訓練を行っている。		地震や火災発生時に、利用者の生命を守る事ためには、2ユニットで1人の夜勤体制なので警察、消防、地域の協力体制を作り上げる事が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合った個別の摂取目標を決めており、職員全員が意識して関わっている。独自に作成した個別の温度板で食事量、水分量、排泄量、体温、血圧、入浴などの情報を共有し、過不足や健康状態を把握して柔軟な支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の素材を活かした温もりのある生活空間で、居間には畳の小上がりがあり、利用者が作った絞り染めや昔風な造りの木造テーブルや家具を置き家庭的な雰囲気を醸し出している。また居間の離れた場所にも、小さなテーブルと椅子が用意され利用者それぞれが居心地良く過ごせる落ち着いたセミパブリックスペースが確保されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具や趣味の道具などを持参している。また本人が買い揃えた思い出の品なども飾られて、その人らしい部屋になっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。